

高齢者問題専門職ネットワーク研修会報告

加藤 哲也（医療法人偕行会名古屋共立病院）

高齢者問題専門職ネットワークは、愛知県弁護士会が中心となり、本会、愛知県社会福祉士会、愛知県司法書士会、愛知県精神保健福祉士会等で構成し、研修会等を開催するものです。構成団体の会員であれば、事前申込不要・直接現地・無料で参加できます。

平成 30 年 1 月 27 日（土）、愛知県司法書士会館で研修会が開催されました。各会から 35 名程の参加がありました。今回は以下の演者により報告がありました。

テーマ：「精神障害者の地域移行、地域包括ケアに向けた取り組み」

報告者：精神保健福祉士 石黒 千花 氏（医療法人一ノ草会一ノ草病院 医療相談室主任）

愛知県が国から受託した平成 29 年度精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築支援事業の概要を報告された。

- ・ 精神障害者の高齢化により、多様な精神疾患等だけでなく高齢者福祉や介護保険制度との連携も必要となる。従来の支援モデルでは対応が難しいため、新たな支援モデルを構築する。
- ・ 精神病床に 1 年以上入院している患者の 57.5%が 65 歳以上である。
- ・ 第 5 期障害福祉計画に係る国の基本指針見直しにおいて、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築が挙げられた。高齢者の同システムと基本的な構造は同じである。
- ・ 愛知県の退院率は全国平均の上位と同水準であり、入院後 3 カ月時点 63.0%、入院後 6 カ月時点 85.9%、入院後 1 年時点 92.1%、で推移している。
- ・ 平成 30 年度からの第 7 次医療計画では、多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築に向け、各医療機関における医療機能の明確化が図られる。
- ・ 依存症は、アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル等依存症に区分して対応する。
- ・ 630 調査等により、精神病床入院患者の疾患別・人数等を把握している。各医療圏で対応できない分野を表面化させ、近隣医療圏の対応可能な医療機関との連携を促進させる。
- ・ 630 調査とは、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課が毎年 6 月 30 日付で行っている精神科病院・診療所、自治体等における精神保健福祉の現況モニタリング調査である。平成 29 年度からはレセプトデータ等も合わせ、総合的な「精神保健福祉資料」として公表される。
- ・ 愛知県では、従来から関係機関の連携が図れていたとの理由から、東三河南部圏域（豊橋市・豊川市・蒲郡市・田原市）が本事業のモデル圏域となっている。
- ・ モデル圏域での主な事業は、地域移行・地域定着支援推進研修の実施、精神科病院職員向けに地域移行支援研修の開催、病院訪問、見守り大家さん研修・交流会の開催等であった。
- ・ 質疑応答では、地域移行に関する当事者や医療者の想いや、ピアサポーターによる啓発活動等が紹介された。

次回の予定 日 時：平成 30 年 4 月 21 日（土）午後 1 時～午後 3 時

テーマ：民法改正案－相続税法の見直しについて－（仮）

場 所：東区在宅サービスセンター（予定）

次々回の予定 日 時：平成 30 年 7 月 28 日（土）午後 1 時～午後 3 時

※変更することがあります。詳細が決まり次第、会報・ホームページ等でご案内します。